

産地戦略

実施期間 令和9～14年度

実施主体 宮城県（農政部農業振興課、仙台地方振興事務所農業振興部）
 都道府県 宮城県
 対象地域 宮城県利府町
 対象品目 ナシ



新たに取り入れる環境にやさしい栽培技術の分類

● 化学農薬の使用量の低減	温室効果ガスの削減（水田からのメタンの排出削減）	温室効果ガスの削減（プラスチック被覆肥料対策）
化学肥料の使用量の低減	温室効果ガスの削減（バイオ炭の農地施用）	温室効果ガスの削減（省資源化）
有機農業の取組面積拡大	温室効果ガスの削減（石油由来資材からの転換）	温室効果ガスの削減（その他）

目指す姿

宮城県利府町では、国道8号線沿いを中心に直売を主とする日本なしの生産が盛んであるが、近年ハダニ類の発生が目立つようになった。従来の化学農薬に頼った防除方法や農薬散布の回数増加が課題となっている。ダニ類の薬剤抵抗性の問題もあり、できるだけ化学農薬に頼らない防除方法を取り入れ、農薬散布回数の削減による省力化を進める必要があった。そこで、本事業の活用により、天敵ダニ製剤の導入による化学農薬の使用量及び農薬散布回数の削減等の効果を検証し、グリーンな栽培マニュアルを作成し、グリーンな栽培体系の普及を図る。

現在の栽培体系

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業名	栽培マニュアルに記載のとおり												
技術名	栽培マニュアルに記載のとおり												

グリーンな栽培体系

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業名	栽培マニュアルに記載のとおり												
技術名													

グリーンな栽培体系等の取組面積の目標

	現状R6	目標R11	備考
（参考）対象品目の作付面積（ha）	20	▶ 20	
グリーンな栽培体系の取組面積（ha）	0	▶ 1	
環境にやさしい栽培技術の取組面積（ha）	0	▶ 1	
省力化に資する技術の取組面積（ha）	0	▶ 1	

環境にやさしい栽培技術・省力化に資する技術の概要

〈技術の内容・効果〉

分類	産地の慣行	新たに取り入れる技術	期待される効果
環境 省力	化学農薬のみの防除	▶ 天敵資材を活用したIPM	化学農薬の使用回数の削減 薬剤抵抗性の発生リスク軽減
		▶	

〈技術の効果の指標・目指すべき水準〉

分類	指標	現状	目指すべき水準	備考
環境 省力	化学農薬の使用回数（回）	6	▶ 5	ダニ剤散布回数 6回→5回に削減
			▶	
			▶	
			▶	

* 環境にやさしい栽培技術のうち化学農薬・化学肥料の使用量の低減および省力化に資する技術については、原則、検証結果を踏まえて効果の指標・達成すべき水準を設定する（有機農業の取組面積拡大、温室効果ガスの削減に資する技術については、当該欄の記載は任意とする）

* 化学農薬の使用量の低減については、どの剤の使用量を削減するのか、どの剤からどの剤へ切り替えるのかが分かるように記載する

グリーンな栽培体系の普及・定着に向けた取組方針

日本梨栽培において、天敵ダニ製剤（アリストタススパイカルプラスUM）等の導入による、ハダニ類の被害の軽減効果を検証し、化学農薬使用量の削減及び化学農薬散布回数の削減効果を確認した実証は結果に基づき作成した、栽培マニュアルを活用して、栽培体系の普及を推進する。

関係者の役割

関係者名	J A 仙台（東部営農センター）	利府町	宮城県農業・園芸総合研究所	
役割	生産部会支援・技術指導	産地支援、生産振興	栽培マニュアル作成支援、技術指導助言	

事業を活用して導入した農業機械等の活用面積の目標

農業機械名	作業内容	活用面積（R●）（ha）	備考

生産物の販売方法、消費者理解の醸成の取組等

利府町で生産された梨のほぼ100%は生産者による直売である。直接農家個人で設けている直売所まで足を運ばれる消費者の方には、口頭と本事業で作成されたリーフレットを配布し、環境にやさしい栽培方法の取組をPRしていく。また、遠方に贈答用として箱に詰めて宅配される商品についても、本事業で作成されたリーフレットを活用し、同様のPRを行っていく。

その他